

■上杉憲顕 武將。関東執事・関東管領。室町幕府創設に活躍し関東上杉氏の基礎をつくった。

うえすぎのりあき

・・・・・・ 1306= 武將上杉憲房の子に生まれる。足利尊氏・直義とは従兄弟にあたる。

・・・・・・ 1315= 9歳 :

後醍醐天皇・1318=12歳 :

正中の変・・ 1324=18歳 :

鎌倉幕府滅亡1333=27歳 :

二条河原落書1334=28歳 : 建武政権下で関東廂番衆となった。

中先代の乱・1335=29歳 : 足利尊氏が後醍醐天皇に叛くとそれに従い、足利直義に属して駿河国手越河原に戦い、また尊氏がいったん九州に逃れたときにはこれを支援するため石見国に赴いた。

南北朝分裂・1336=30歳 : 父憲房が京都で討死したのち家督を継ぎ、上野国の守護に任じられた。その後、上野・下野・越後などの各地を転戦し、

・・・・・・ 1340=34歳 : *高師冬とともに鎌倉府の執事に任じられ、足利義詮、ついで基氏を補佐し、

・・・・・・ 1341=35歳 : 越後の守護を兼ねる。

五山制定・・ 1342=36歳 :

観応の擾乱始1350=44歳 : 尊氏・直義兄弟の対立が激化して観応の擾乱が起ると、養子の能憲らとともに直義方に属し、尊氏方に属した師冬が基氏を擁して相模国毛利庄湯山に陣すると、これを攻めて基氏を奪い、

・・・・・・ 1351=45歳 : 甲斐国須沢城に師冬を攻めて自害させた。しかし尊氏に対抗して直義を北陸から鎌倉に迎え入れようとしたため、尊氏の怒りを買って上野・越後の守護職を没収された。

観応の擾乱終1352=46歳 : *さらに、鎌倉で直義が毒殺されて観応の擾乱が終結すると、反尊氏の立場をとったために追討を受け、信濃国に敗走したのち、剃髪して道昌と号する。

北国に隠棲すること十年ののち、執事畠山国清を追放した鎌倉公方足利基氏の要請を受けて、再び鎌倉に迎えられ、

・・・・・・ 1360=54歳 :

山名時氏征討1363=57歳 : 越後国の守護、

・・・・・・ 1364=58歳 : *上野国守護に復帰し、また関東管領に任じられた。

足利義満将軍1368=62歳 : *武蔵国の守護を兼ねた。将軍足利義詮が没して義満が嗣立されるにあたり、その祝賀に列するため上洛するが、その間、関東で平一揆が起り、越後・上野では新田義宗・義治らの不穏な動きが伝えられたため、急ぎ関東に帰ってこれらを鎮圧するうち、足利の陣中で没した。

伊豆の奈古屋に国清寺を建立し、同寺に葬られた。